

## 再々評価個表

事業名	広域河川改修事業	事業主体	愛媛県
施設・工区名等	(一) <sup>うちひらがたに</sup> 内平ヶ谷川	事業箇所	<sup>うわじま みま みやのした</sup> 宇和島市三間町宮野下
事業主旨	<sup>うちひらがたに</sup> 内平ヶ谷川は、旧三間町の中心市街地を貫流しているが、河道断面が小さいため、小・中・高等学校の公共施設や家屋、農地に浸水被害が発生している。このため、河積の拡大や横断工作物の改築を行い、洪水時における被害軽減を図り、住民生活及び生産活動の安定を図るものである。		
再評価の実施理由	再々評価実施後5年が経過して継続中		

### 1. 地域（流域）の概要

<sup>うちひらがたに</sup>内平ヶ谷川は、高森山から東に延びる標高700m前後の山脈の南斜面に源を發し、多数の支川を合わせ、<sup>うわじま みま みやのした みま</sup>宇和島市三間町宮野下で三間川に合流する河川であり流域面積6km<sup>2</sup>、流路延長約5kmの一級河川である。上流域及び下流域は農地が主であるが、中流域は旧三間町の市街地があり、河道断面が小さいため頻繁に浸水被害が発生しており、特に昭和63年6月の台風では、公共施設や浸水家屋88戸の甚大な浸水被害が発生し、近年においても、平成16年、平成17年にも浸水被害が発生している。

### 2. 事業概要及びこれまでの事業経緯

事業採択	平成 2年	完成予定	平成 33年
用地着手	平成 2年	工事着手	平成 3年
全体事業費	2, 236百万円(うち用地費: 828.5百万円)		
(1) 事業概要	延長1,500m、築堤2,700m、掘削15,000m <sup>3</sup> 、護岸3,000m 道路橋9箇所、鉄道橋1箇所、堰6箇所		
(2) 事業経緯	平成2年度: 広域基幹河川改修事業採択		

### 3. 事業の必要性及び整備効果等

<b>(1) 事業の必要性及び整備効果</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の必要性 事業区間には、旧三間町の中心地であり、小・中・高等学校、市役所の支所、銀行、郵便局、商店街や家屋が連担し、地域住民の生活の拠点となっているが、河道断面が小さく、浸水被害が頻発しており、河道断面の拡幅により浸水被害の軽減を図る必要がある。</li> <li>・ 整備効果 概ね 10 年に 1 度発生する洪水を安全に流下させるための河道拡幅を行っており、これにより、面積 69ha、家屋 170戸、農地 47ha、学校 3 校の浸水被害が大幅に軽減され、地域住民の安全・安心が確保される。</li> </ul>	
<b>(2) 事業を巡る社会経済情勢等の変化</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域開発の状況 世帯数の増加による宅地化が進んでおり、今後も増加が予想される。また、四国横断自動車道（三間<sup>みま</sup>インターチェンジ）の開設を間近に控え、社会的、経済的にも治水安全度の向上が期待される地域である。</li> <li>・ 地域の協力体制 改修工事による浸水被害軽減の効果は大きく、地域の事業に関する関心は高い。また、用地買収についても、地権者の協力が得られ順調に進んでいる。</li> </ul>	

### 4. 事業の進捗状況及び進捗の見込み

<b>(うち用地費)</b>	( 603 百万円)	〔進捗率：72.8%〕(事業費換算)
<b>H21 年度末投資事業費</b>	1,470 百万円	〔進捗率：65.7%〕(事業費換算)
<b>(1) 未着工又は事業が長期化している理由</b>		
<p>事業区間内は、三間<sup>みま</sup>町の中心市街地であり、家屋等の補償物件も多く、JR 橋や道路橋、上流部及び下流部は農地のための堰等の横断工作物の改築が多数あるため、工事に相当の期間を要している。</p>		
<b>(2) これまでの整備効果</b>		
<p>下流部の 700m の改修が完成し、浸水被害の軽減が図られている。</p>		
<b>(3) 事業の進捗の見込み</b>		
<p>H21 年度末の事業費ベースの進捗率は約 65.7% となっており、700m の改修が完成している。用地買収は約 72.8% の進捗となっており、地元の協力等も得られており、今後とも順調な事業の進捗が見込まれる。</p>		

## 5. 事業の投資効果（費用対効果分析）

C：総費用＝2,872百万円

- ・建設費 2,722百万円
- ・維持管理費 150百万円

B：総便益＝15,692百万円

- ・整備期間中の便益 8,704百万円
- ・事業完成時から50年間の便益 6,964百万円
- ・残存価値 24百万円

$$B/C = 15,692 / 2,872 = 5.46$$

## 6. コスト縮減や代替案立案等の可能性

護岸整備にあたっては、既設護岸を利用し、コストの縮減を図る。

## 7. その他

本箇所における河川改修は、第5次愛媛県長期計画において、県土の保全を図るための総合的な治水対策箇所として位置付けられており、浸水被害の頻発している箇所の治水効果を早期に発現させる必要がある。

## 8. 対応方針（素案）

本事業を『継続』としたい。